

■富田高慶 農政家。二宮尊徳の門弟で「報徳記」を著わし、報徳運動の指導者の一人となる。

とみたこうけい

黒住教・ ・ ・ 1814 = 相馬中村藩士斎藤嘉隆の次男に生まれる。

水野忠成老中 1818 = 4歳 :

シギキ 出来日・ 1823 = 9歳 :

父は3代の藩主に仕えて信任厚く、兄も後に藩の学者となるような家柄に育つうち、

天明の大飢饉以来疲弊したままの藩民を救うべく、

宮籙流行・ ・ 1830 = 16歳 : 江戸へ出て、屋代弘賢に入門し、

鼠小僧磔・ ・ 1832 = 18歳 : さらに、昌平黌の儒官依田源左衛門の塾生となって、

苦学するも、藩の復興には役立たないと落胆するうち、

大塩平八郎乱 1837 = 23歳 :

蚕社の獄・ ・ 1839 = 25歳 : 二宮尊徳の仕法を聞かぬや、下野国桜町陣屋に尊徳を訪ねて拒絶されるも、半年立ち続けてようやく入門、以後、師弟愛のなか薫陶を受け、小田原・日光などの仕法で尊徳を助けて、門下筆頭となり、

天保改革始・ 1841 = 27歳 :

自分の課題が疲弊した相馬藩の復興にあったことから、

阿部正弘首座 1845 = 31歳 : *相馬へ帰り、以後、二宮仕法を実践し、藩財政の再建と農村救済にあたる。

その際、尊徳は、相馬藩の過去180年間の経済状況を精査し、「為政鑑」3巻を著わして改革の方針とし、高慶は、農業資金の貸付け、救済、入札による表彰などを行い、農業生産を指導して、相馬藩仕法をほぼ成功させたので、この仕法は、権力を介した上からの仕法の代表的事例となる。

国定忠治磔・ 1850 = 36歳 : *「報徳論」2巻を著わして報徳思想の体系化をはかり、

万次郎帰国・ 1852 = 38歳 : 尊徳の娘文と結婚するが、

ペリー来航・ 1853 = 39歳 : 文は難産死産の上、死去。

松下村塾・ ・ 1856 = 42歳 : *尊徳が死去すると、その一代の事業について述べた「報徳記」を著わして、報徳思想の普及と報徳社運動の実践に大きな影響を及ぼす。

安政の大獄・ 1859 = 45歳 :

桜田門外変・ 1860 = 46歳 :

中村藩から度々家老上席の録位を与えられるも、その都度固辞しながらも、

明治維新・ ・ 1868 = 54歳 : 戊辰戦争に際しては、藩論を官軍帰順に導き、新政府からの奏任官登用も辞退し、磐前県に出仕しても半年で辞任する一方、

初めて、藩政に議会を起し、

廃藩置県・ ・ 1871 = 57歳 : 廃藩置県に際しては、禄を失った相馬藩士族の土着化すなわち農民化をはかり、

明治6年政変 1873 = 59歳 :

興国安民の方法について建言したり、旧藩主家の家産維持にもつとめ、

西南戦争・ ・ 1877 = 63歳 : 尊徳の孫尊親らと{興復社}を設立して社長となり、荒蕪地の開墾を奨励して資金を貸し付けるなど、

明治14年政変 1881 = 67歳 :

帝国大学始・ 1886 = 72歳 :

帝国憲法発布 1889 = 75歳 :

帝国議会始・ 1890 = 76歳 : *最後まで、二宮仕法を実践し続けて、没した。

「人づくり風土記(福島)」,